

概況

平成19年平均大分市消費者物価指数の総合指数は、平成17年を100として100.3となり、前年と同水準となった。

近年の総合指数の動きを前年比で見ると、平成10年は天候不順により生鮮野菜が高騰したことに加え、9年の消費税率引上げや医療保険制度改正の影響が残ったことなどにより0.4%の上昇となった。11年は前年に高騰した生鮮野菜の値下がりに加え、電気・ガス代や工業製品の値下がりなどにより0.7%の下落となった。12年は生鮮食品の値下がりに加え、耐久消費財や繊維製品などの工業製品の値下がりなどにより0.4%の下落となった。その後も耐久消費財などの値下がりが続き、13年は0.7%の下落、14年は1.1%の下落、15年は0.3%の下落、16年は0.1%の下落となった。17年は前年に高騰した米類・生鮮野菜などが値下がりしたことなどにより0.3%の下落となった。18年は原油高の影響などにより0.3%の上昇となった。

平成19年も引き続き原油高の影響などにより外食やガソリン代などが値上がりしたものの、耐久消費財や移動電話通信料の値下がりなどにより、前年と同水準となった。

総合指数と前年比の推移

